

大基委短第82号
平成25年3月19日

大谷大学短期大学部
学長 草野 顕之 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴短期大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記に関し、本年度、貴短期大学よりご提出頂きました「改善報告書」を、短期大学評価委員会において慎重に審議し、別紙の通りとりまとめましたので、ご通知いたします。

敬具

【添付資料】

「改善報告書検討結果（大谷大学短期大学部）」

以 上

<お問い合わせ>

大学評価・研究部 審査・評価系

短期大学認証評価担当（土居・佐藤・山口）

TEL：03-5228-2112

＜ 改善報告書検討結果（大谷大学短期大学部） ＞

[1] 概評

2008（平成 20）年度の本協会による短期大学認証評価に際し、問題点の指摘に関する提言として5点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、貴短期大学部がこれらの提言を受け止め、改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

「学生の受け入れ」については、仏教科では、2006（平成 18）年度以降大幅な定員割れの状況が続いており、2012（平成 24）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.44と低く、改善されたとは言い難い。2013（平成 25）年度より、仏教科の入学定員を40名から20名に削減することが決定しているが、引き続き定員管理に留意されたい。

「学科・専攻科の教育内容・方法等」については、仏教科の留年率が2009（平成 21）年度以降も高い数値で推移しており、引き続き継続的な改善努力が望まれる。また、ファカルティ・ディベロップメント活動については、改善が認められるものの、貴短期大学部教員による組織的な教育内容・方法の改善を、より計画的・具体的に推進することが望まれる。

「教員組織」については、貴短期大学部での授業時間数より、併設大学における担当授業時間数が上回っている専任教員が散見されていた。このことについて、貴短期大学部では「教育上の実態として問題は生じていない」と認識しているが、一方でこの事実を「軽視するつもりはない」としている。貴短期大学部に所属する教員が貴短期大学部の教育により専念できるよう、教員の授業担当や学生指導に関して、貴短期大学部教員による独自の具体的な改善策の検討が望まれる。

[2] 次回認証評価申請時に報告を求める事項

- 1 仏教科の収容定員に対する在籍学生比率が0.44と低いので、次回認証評価申請時に改善状況について再度報告されたい。

以 上